

主な医療機関の腰と首の手術件数

①手術合計②腰椎椎間板ヘルニア(うち低侵襲手術)③腰部脊柱管狭窄症(うち低侵襲手術)④頸髄症

Table with 4 columns (①-④) and multiple rows of hospital names and surgery counts across various regions like Hokkaido, Tohoku, Kanto, etc.

腰椎椎間板ヘルニア 切開2〜3センチ 施設7割で



101

【断面図】



椎間板ヘルニア 椎間板の一部が飛び出し、神経が圧迫される

腰部脊柱管狭窄症 脊柱管が狭くなり、神経が圧迫される

背骨(脊柱)は24個の椎骨でできている。中には脊髄という中枢神経が通り、全身への神経が枝分かれしている。

これらの神経が圧迫されると、腰や脚、腕などに痛みやしびれが出る。治療は薬で痛みを抑えたり、器具で動きを制限したりする「保存療法」が最初の選択だ。

【腰椎椎間板ヘルニア】 軟骨でできた椎間板は、椎骨の間でクッション役を担う。これが背骨側に飛び出して神経を圧迫すると、痛みやしびれなどの症状が出る。

【腰部脊柱管狭窄症】 痛み止めの薬で様子をみるのが基本。麻酔薬を神経の近くに注射する方法もある。

守雄さんによると、薬の服用や、腹筋や背筋を鍛える運動などで良くなるのが約3割といふ。

手術は、椎骨の背側を縦に切って開き、脊柱管を広げる。低侵襲手術は、椎間板ヘルニアに比べて実施施設の割合が低く、481施設中272施設(57%)だった。

【頸髄症】 首の骨の中を通る脊髄が圧迫されると、手や脚にしびれや痛みが出る。服のボタンをかける、はしを使う、歩くなどの日常的な動作がうまくできない場合がある。

来週は「アンケート」です

くらしの健康

健康

「病院の実力 2011 がんに克つ」(読売新聞医療情報部編) 連載中の「病院の実力」の中から、がんの治療実績データを1冊にまとめました。



過去の「病院の実力」は読売新聞の医療サイト「ヨミドクター」のパソコン版... 次回(1月9日)は 病理診断